

【小学校中学年】類推して「聞くこと」、思いを大切に「話すこと」の指導事例

～千葉県流山市立西初石小学校 第3学年～

取組のねらい

- まとまりのある英語を聞くことを通して、初めて出会う英語や意味が分からない単語であっても、絵や指導者によるジェスチャーなどをヒントにして、推測して理解しようとする態度を育てる。
- 指導者が読み聞かせを行いながら、児童と何度もやりとりをすることで、繰り返し聞いたり言ったりして英語の表現に自然に慣れ親しませる。

指導の実際

対象学年：第3学年

使用教材：文部科学省作成補助教材「*In the Autumn Forest*」（大型絵本を紙芝居風に加工したもの、児童用小型絵本）、児童用カード（動物）

第1時

目標：まとまりのある英語での物語を聞き、推測しながら聞くとともに、動物の言い方で日本語と英語の音の違いに気付く。

- ①指導者の読み聞かせを聞いて絵本のおおまかな内容を理解する。
- ②ポインティングゲームを通して、英語での動物の言い方を繰り返し聞き、動物の言い方で日本語と英語の音の違いに気付く。
- ③神経衰弱ゲームを通して、英語での動物の言い方を繰り返し聞いたり、英語らしく言ったりする。

- ◆指導者は大型絵本を使って児童の反応を確かめながら読み聞かせを行い、児童は絵や指導者のジェスチャーなどを手掛かりに、意味を推測しながら聞く。
- ◆指導者は児童とやり取りしながら次の展開を予想させたり、簡単な表現を一緒に読ませたりする。



第2時

目標：動物の言い方や相手を確認する表現に慣れ親しむ。

- ①神経衰弱ゲームを通して、英語での動物の言い方を繰り返し聞いたり言ったりする。
- ②指導者の読み聞かせを聞きながら、分かる部分を一緒に言う。
- ③ペアで好きな動物のページを決め、せりふの練習をする。

- ◆児童一人一人が小型絵本を手に持ち、様々な活動で活用することで、英語に触れる機会を増やすことができる。また、文字への興味も高まる。



第3時

目標：英語と日本語の音の違いに気を付けて、ペアで決めたページを積極的に発表しようとする。

- ①神経衰弱ゲームを通して、英語での動物の言い方を繰り返し聞いたり言ったりする。
- ②指導者の読み聞かせを聞きながら、動物やせりふの言い方を確認する。
- ③ペアで発表の練習をする。
- ④ペアごとに選んだページの発表をする。

- ◆児童が自分で選んだ動物のせりふを発表させることで、児童の「伝えたい」という思いを大切に「話すこと」の表現活動にすることができる。



次単元Hi, friends! 1 Lesson 5（好きな動物などを尋ね合う）の活動につなげる。

「聞くこと」を大切に、「話すこと」「読むこと」につなげる指導事例

～埼玉県南埼玉郡宮代町立東小学校・笠原小学校 第5学年～

本時の目標

- ◎ “I like ～.” “He (She) likes ～.” の表現の会話を聞いて、話の内容を理解することができる。
- 積極的に言語活動を行い、自分のことについて話し、相手のことを聞き、友達のことを紹介し、コミュニケーションを図ろうとする。
- “I like ～.” “He (She) likes ～.” “He (She) likes ～,” “He (She) plays ～.” を使って、自分のことや友達のことを話したり書いたりして表現することができる。

指導の実際

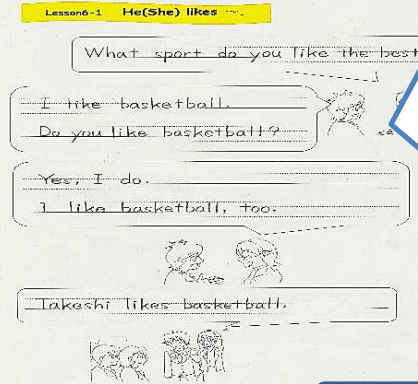
対象学年：第5学年
使用教材：研究開発 自作教材 テキスト Lesson 6「He (She) likes ～. (He (She) plays ～.)」
文字学習用 自作ワークシート

学習活動

- ① Sit Down Game で教師が学級の半分の児童に好きなスポーツを尋ね、児童は自分のことについて答える。残りの半数の児童は会話の中から得た友達の好きなスポーツを思い出して話す。
- ② ♪「This old Man」を繰り返し聞き、英語の音声に慣れ親しむ。
- ③ Main-1「この人は何が好き？」の活動で、教師の好きなものを想像し、会話を楽しむ中で英語らしい音声を繰り返し聞く。
- ④ Main-2 Reading でテキストの会話文をたくさん聞きながら読む活動を行う。
- ⑤ 児童が「分かったことを中心に」本時の振り返りを行う。

◆「英語が使える日本人」を育成するために、本校では、「英語らしい音声をたくさん聞かせること」「話すこと」「読むこと」への指導につなげている。

◆「ことばの学びの特質」を踏まえ、1単位時間の目標は、単元の目標の中から重視する観点(◎)を決め設定している。そうすることで、付けたい力を焦点化、明確化した指導を行うことができる。



◆中学校と連携し、文科省作成Hi, friends! で聞かせてきた英語と中学校で使用している英語科の教科書を基に作成している。児童の生活場面に即した会話を載せ、「話す活動」とつながるよう工夫している。



◆歌を聞いて聞き取れたことばを尋ねたりしながら、何度も聞かせることで、児童は自然に歌が歌えるようになっていく。



- ◆「読む」活動
- ① 会話文を聞き、聞こえたことを言う。
 - ② 文章を追いつながら聞く。
 - ③ どの文章が読まれているか選ぶ。
 - ④ 一緒に読んでみる。(いろいろなスピードで)
 - ⑤ 自分で読める部分を読んでみる。

指導の効果

・文字学習は児童にとって難しいが、音声から文字(「読み」)へ自然につなげる指導方法について試行錯誤行ってきた結果、「音声を聞かせること」が効果的だということが分かった。「読むこと」においても、文字を見せる前に会話文をたくさん聞かせる工夫をし、音声が入った上で文字を見せ、音と文字をつなげていくことによって、自然と読めるようになった。

◆Sit Down Game で友だちの好きなスポーツを児童が紹介している。教師は、その内容を、“Do you like ～?” “He likes ～.” と話し、英語らしい音声をたくさん聞かせている。

英語の音声への気付きを促す「読むこと」の指導事例

～山口県光市立室積小学校 第6学年～

単元の目標

日常生活について表す語句や表現に慣れ親しむとともに、語、句、文における基本的な強勢やイントネーションに気を付けて絵本を読むことができるようにする。

指導の実際

対象学年：第6学年

使用教材：文科省作成 Hi, friends!2 (Lesson6 「What time do you get up ?」)、Hi, friends! Story Books (第4学年 “Good Morning”)

時	目 標
1	1日の生活を表す表現や1から60までの数字の言い方に慣れ親しもうとする。
2	1日の生活について、質問したり、質問に答えたりすることができる。
3	時刻の言い方や尋ね方に慣れ親しもうとする。
4	簡単な英語を用いて、1日の生活表を作ることができる。
5	作成した生活表を基に、自分の1日の生活について、友達に紹介することができる。
6	単語のアクセントや語と語の連結による音の変化に気付き、絵本を読むことができる。
7	単語のアクセントや語と語の連結による音の変化に気を付けて絵本を読むとともに、自分の1日の生活を紹介する文を書くことができる。



下級生への読み聞かせの場を設定するようにする。

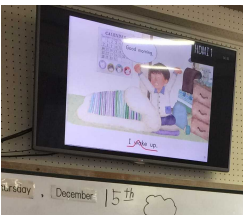
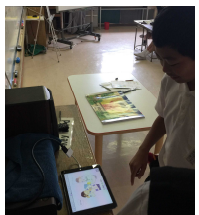
第6時の学習活動

- ①フラッシュカードを見たり、ゲームをしたりしながら、既習の日常生活を表す語句を繰り返し聞いたり言ったりする。
- ②ALTの“Good Morning”の読み聞かせを聞き、読み方について気付いたことを話し合う。



◆読み方を向上させたり、語句や英文の読み方に興味をもったりできるようにするために、アクセントと語と語のつながりについての気付きを学級全体で共有する。

- ③単語のアクセントや語と語のつながりを意識しながら絵本を読む。



◆ワークシートにアクセントは赤、つながりは青で記入させ、読み方を意識できるようにする。

- ④絵本の表現を参考にして、自分の1日の生活を友達に話す。
- ⑤絵本を読んだり、1日の生活について話したりするときに、気を付けたいことを振り返りカードに書く。

指導の効果

- ・児童の気付きを学級全体で共有し、視覚化したことで、単語のアクセントや語と語のつながりを意識して読むようになった。
- ・抑揚や強く言う場所を意識するようになり、英語を読むことや話すことに自信を持つ児童が増えた。
- ・「日本語はアクセントをあまり意識しないが、英語はアクセントが大事だと思った。」「“I can play ~”と“I can't play ~”は、1字しか違わないが、アクセントの位置が違う。大事なところが強くなるのだと思う。」など、日本語と英語の違いや発音についての気付きが多く見られた。

カードゲームを活かした「読むこと」「話すこと」の指導事例

～京都教育大学附属桃山小学校 第5・6学年～

本時の目標

- 繰り返しカードゲームを楽しむことによって、簡単な英語を使って話すこと(やり取り)に慣れ親しむ。
- 簡単な単語を絵を見ながら何度も読むことによって、定着を図る。

指導の実際

対象学年：第5・6学年

使用教材：カードゲーム『Peach』（独自教材）

A～Zまでのアルファベットと

その単語が書いてあるカード26枚×4色

ラッキーカード5枚×4色

計 124枚



◆カードゲームを楽しみながら簡単なやり取りの表現と語彙の定着を促す。また、ルールを発達の段階に応じて変更することによって多くの学年で実施可能である。子供たち自身がルールを決めることにより、クラスによって様々な遊び方を楽しむことができる。

学習活動

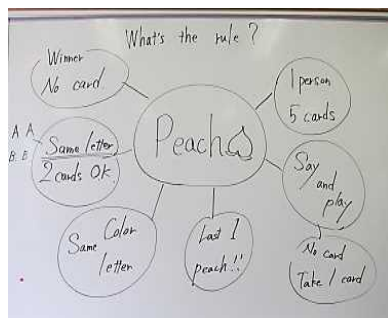
- ①カードゲーム『Peach』を5, 6人に1セットずつ配付してどうやって遊ぶかグループで考える。
- ②考えたルールを発表する。
- ③ラッキーカードを使う場合は、読み方とルールを決める。
- ④再び遊びながらルールを理解する。
- ⑤実態に応じて新しいルールを変更したり追加したりして、単語を読むこと、英語での簡単なやり取りなどを楽しむ。

【カードゲーム『Peach』の基本ルール】

- ・カードを出すときは必ずその単語を言う。
- ・1度に出せるカードは1枚のみ。
- ・分からない場合は、誰かに言い方を尋ねることができる。

指導の効果

- ・カードに書いてある単語をHow do you say?と聞きながら意欲的に言い方を尋ねて発話する様子が多く見られた。
- ・ルールを決める際に英語で伝える児童もいた。
- ・児童同士で知っている言葉を教え合いながらゲームを楽しむ姿が見られた。
- ・オールイングリッシュで遊ぶことによって児童の自信へとつなげることができた。



児童の興味・関心を生かした「読むこと」「書くこと」の指導事例

～山形県鶴岡市立京田小学校 第6学年～

本時の目標

- 鶴岡のおすすめの場所について、既習表現を使ったチャンツで意欲的に紹介する。(文科省作成 Hi, friends! 2 Lesson5 Let's go to Italy の発展)
- 言い慣れた表現を読んだりオリジナルのチャンツを書いたりする活動を通して、文字に対する興味関心を高める。

指導の実際

対象学年：第6学年
使用教材：児童が作成した様々な国のよいところをまとめたポスター
チャンツの表現を提示するカード
オリジナルチャンツを英語で書くシート

学習活動

- ①チャンツのリズムにのせて本時で使う表現に慣れる
- ②チャンツの表現を文字で提示し、文字を見ながら言う
- ③チャンツの表現に合わせて、おすすめ場所の紹介シートを作成する
- ④“My best in Tsuruoka”のチャンツを練習し、グループごとに発表する

Let's go to Yura.
You can see Hakusanjima.
You can eat delicious fresh fish.
You can eat delicious ramen.
Nice place. Let's go!!

児童が作成した「紹介シート」



単語とその読み方を結び付けて聞いたり書いたりできるように、英文を見せながら、ジェスチャーも加えつつ、チャンツをたっぷり真似する時間をとった。また、児童の意欲を大切に、単語のみ記入しても、文章で記入してもよいこととした。

小学校の高学年になり、聞いたり言ったりできる表現が増えている。「おすすめ場所を紹介する」という明確な目的意識の中で、言い慣れた表現、言ってみようという表現を、読んだり書いたりする活動を取り入れることで、子供の「読んでみたい」「書いてみたい」という意欲を生かして文字を扱うようにする。

Let's go to	
You can	eat ~.
You can	see ~.
You can	ride ~.

チャンツや子供同士のやり取りの中で、十分に聞いたり言ったりした表現を文字で示した。文字を見ながら言うことで音と文字のつながりに気付かせるようにした。語順や文の仕組みへの気付きにつながることを意識し、文の区切り方や品詞の機能ごとに色分けなどを工夫した。

文字の提示の例

5年生にも分かりやすいように、協力して考えたジェスチャーを取り入れてグループごとに発表。



発表の様子

指導の効果

- ・単純なドリル学習と違い、話したい言葉や書きたい言葉を書くことで、児童の意欲が高まり、いつもにも増して丁寧な文字で集中して書く姿が見られた。
- ・児童には単語のみを記入するシートと文章全体を書くシートのどちらかを選択させたが、ほとんどの児童が文章全体を書くシートを選択した。書くことへの意欲の高まりを確認できた。
- ・口頭で慣れ親しんだ英語を文字で示すことで、文字と音とのつながりへの気付きや、意味の理解の深まりが見られた。

自然に「読むこと」「書くこと」を導入する指導事例(「名刺交換」活動の工夫) ～福井県勝山市立成器西小学校 第5学年～

指導にあたって

- 学習を進めていく中で、児童が自然に「読みたい」、「書きたい」と思う、必然性のある言語活動を設定する。
- 「習得→活用」の順序ではなく、「活動する中で課題に気づき、課題解決のために必要な知識を得て習得する」という流れの学習活動を仕組む。

指導の実際

単元の目標

名刺を作成し交換しながら互いのことを知る活動を通して、自分の名前や簡単な英語を書いたり読んだりする。

学習の流れ

- ①名刺づくりにおいて、自力で英語を書くことに挑戦し、うまく書けないことを体験する。
- ②教師の説明を聞き、簡単な単語などの正しい表記の仕方を知る。
- ③正しい書き方を練習し、名刺に清書する。
- ④作成した名刺を交換し、友達の名前や英語で書かれた単語を読む。
- ⑤自分と友達が共通して好きなものについて、4線上に書く。

[オリジナル名刺]



ポイント

- ◆名前だけでなく、自分が好きなものや得意なことなどを表す絵や簡単な単語も加えることで、「自分のことを伝えたい」「友達のことを知りたい」という意欲を高めることができる。

[名刺づくりの様子]



- ◆「正しい書き方を学ぶ→練習→名刺作成」という流れではなく、「まず自分で名刺を作ってみる」という活動を設定することで、児童は「正しく書くためにどうしたらよいか」という気づきや疑問をもって教師の説明を聞き、「正しく書きたい」という意欲をもって練習や清書を行うことができる。

[名刺交換]



- ◆交換した友達の名刺にかかれた絵や文字を目にすることで、自然に新しい単語を「読むこと」につながる。
- ◆自分たちが好きなものを4線上に書くことで、児童自身にとって意味のある単語を自然に「書くこと」につながる。

成果

- ・自分のことを知ってもらい喜びや相手のことを新たに知る驚きなどのコミュニケーションのよさを体験しながら、必然性をもって英語を聞いたり、話したり、書いたり、読んだりすることができた。
- ・「名刺交換」という児童にとって分かりやすくシンプルな活動を設定したことで、どの児童も意味を理解して活動に参加できた。
- ・友達だけでなくALTに渡すという目的をもたせたことから、絵だけでなく「文字も書きたい」という意欲を高めることができた。
- ・一度一人で名刺を作ってみて上手く書けないことや読めないことを体験させることで、「正しく書きたい」という意欲を高めることができた。

今後の課題

- ・児童の発達の段階を踏まえた「コミュニケーションの活動内容」となるように、年間指導計画及び各単元の指導計画を立てること。
- ・「読むこと」の指導にあたっては、「目で読むこと」と「口に出して読むこと」の違いを意識して活動を設定すること。
- ・「書くこと」の指導にあたっては、「自分の思いを伝えるために正しく書きたい」という意欲を高めるように、児童に目的意識や相手意識をもたせる仕掛けや授業展開などを工夫すること。

話す活動の資料作りに簡単な語句や表現を書く活動を取り入れた指導事例

～鳥取県若桜町立若桜学園小学校 第6学年～

単元の目標

- 自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。
- “I want to ～”という表現を用いて自分の行きたい国についてやり取りしたり、“You can ～”という表現を用いておすすめの国の魅力が伝わるように紹介したりすることができる。
- 世界には様々な国や生活があることを知り、日本との共通点や文化の違いを理解している。

指導の実際

対象学年：第6学年
使用教材：文部科学省作成“Hi, friends!2”、パソコン、タブレット

第1時

- 目標：国の名前の英語の言い方や、各国の世界遺産の言い方を知る。
- ①国旗のピクチャーカードで国の名前の英語の言い方を知り、練習する。
 - ②国の名前についてミッシングゲームをする。
 - ③各国の代表的な世界遺産の写真を見て、どこの国かを理由とともに考える。

第2～4時

- 目標：自分が行きたい国とその理由を友達と伝え合うことができる。
- ①友達と、行きたい国について尋ね合う。
 - ②友達と、その国に行きたい理由について尋ね合う。
 - ③Hi, friends!のチャンツに乗せて、自分がその国に行きたい理由を三つ言う。

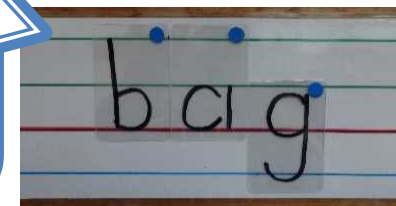
第5～6時

- 目標：おすすめの国について調べ、ガイドポスターに単語を書き写すことができる。
- ①自分たちが紹介する国について調べる。
 - ②ガイドポスターとして、調べたことをまとめ、写真を表す単語を書き写す。

第7～9時

- 目標：ガイドポスターやタブレットを見せながら、“You can ～”の表現を使っておすすめの国の魅力を友達に伝わるように紹介することができる。
- ①canを使ったおすすめの国を紹介する言い方を知る。
 - ②友達に紹介する練習をする。
 - ③ガイドポスターやタブレットを使っておすすめの国を紹介し、友達の紹介に対してコメントをする。

◆毎時間授業の初めの10分間に、アルファベットの文字とその音との関係を結び付ける活動と補助教材ワークシートを使って書く活動を続けて行っており、4線に書くことにも慣れてきている。



◆ガイドポスターの写真を表す単語を、4線のシートに書くようにする。その際に文字の高さ、単語のまとまりを意識して書くようにする。



◆おすすめの国を紹介する活動では、ガイドポスターの写真と4線に書いた単語を確かめながら、話したり聞いたりしている姿が見られる。

指導の効果

- ・児童同士がやり取りする際に、自ら英語で書いたキーワードを示すことによって、話し手と聞き手の両方にとって、大事な情報が明確になり、コミュニケーション活動を安定して継続させることができた。
- ・自分が紹介したいものを英語で書くことを通して、綴りに対する興味が高まり、ピクチャーカード等に書かれた単語を進んで読もうとする姿が見られた。



「話すこと」の学習内容の定着と「書くこと」の慣れ親しみを関連付けた指導事例

～徳島県阿波市立林小学校 第6学年～

単元の目標

- 読み聞かせをする活動を通して、相手を意識しながら、自分の選んだ生き物やその特徴を紹介することができる。
- 自分が選んだ言葉を正しく書き写すことを通して、アルファベットを書くことに慣れ親しむ。

指導の実際

対象学年：第6学年

使用教材：文部科学省作成補助教材「In the Autumn Forest」

第1・2時

目標：絵本「In the Autumn Forest」に出てくる生き物やその特徴を表す言葉を知り、その言い方に慣れるとともに、絵本にする生き物を選択する。

- ①絵本「In the Autumn Forest」の読み聞かせ聞き、生き物やその特徴を表す言葉について知る。
※JTE・・・(英語が堪能な日本人)
- ②絵本「In the Autumn Forest」の小型版を用い、JTE※の話す生き物の名前や特徴を表す言葉を指さすなどして英語での言い表し方に慣れる。

第3時

目標：自分が選んだ言葉を書き写すことを通して、アルファベットがまとまってひとつの言葉になっていることに気付き、書くことに慣れ親しむ。

- ①JTEの発声するアルファベットをひと文字ずつ聞いて書き、アルファベットがまとまってひとつの言葉になることに気づく。
- ②調べた生き物の名前やその特徴を表す言葉を、自分がつくった絵本に丁寧に書き写す。

第4時

目標：読み聞かせ方を工夫し、相手を意識しながら選んだ生き物やその特徴を紹介し合おうとする。

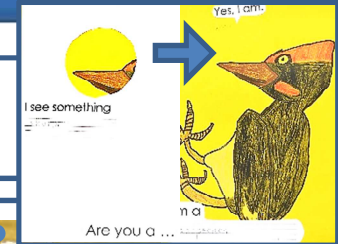
- ①学級担任とJTEのデモンストレーションをもとに、読み聞かせをするときに大切なことや効果的な工夫について話し合う。
- ②グループで読み聞かせの練習をする。
- ③クラス内で、グループごとの読み聞かせの発表をする。
- ④2年生への発表会に向けて、よりよく伝えられる話し方について話し合う。

第5・6時

目標：2年生に読み聞かせをする活動を通して、相手を意識しながら、自分の選んだ生き物やその特徴を紹介することができる。

- ①話し合ったことを生かしグループで練習をする。
- ②2年生に絵本の読み聞かせをする。
- ③学習のふり返りをする。

○くんのカメレオンがハゲだと思
たらカメレオンでした。くふうをしてい
るんだなと思いました。
○2年生は、みんなはきはきいってりたの
がすごかったです。



◆JTEの発声するアルファベットを、4線ボードにひと文字ずつ書く。丁寧に、じっくりと書くことを通して書くことに慣れ親しませる。

◆自分が選んだ生き物や特徴を表す言葉を丁寧に書き写し、絵本を完成させる。自分で完成させた絵本だからこそ、「伝えたい」という気持ちがわきおこる。

◆グループごとに、読み聞かせを発表する。もっとうまく伝えられる話し方が「できるようになりたい」という意識を児童が持てるように話し合いを進める。

◆2年生を前にして、身につけた英語の表現を用いて、相手を意識した読み聞かせをする。

指導の効果

- ・児童の「できるようになりたい」という思いを大切にした学習を進めることにより、学習内容の定着が進んだ。
- ・書く活動において、書く事柄を話すこと・聞くことの学習内容と関連させ、相手を意識しながら取り組むことにより、児童は意欲的に書くことに慣れ親しむことができた。

話すこと・聞くことを中心とし、書くことを段階的に取り入れた指導事例 (文科省作成 Hi, friends! と郷土の学習を関連付けた取組)

～鹿児島県伊佐市立大口小学校・山野小学校・羽月小学校 第6学年 大口東小学校・牛尾小学校・平出水小学校・羽月西小学校・曾木小学校・針持小学校 第5・6学年～

取組の内容

ふるさと教育の推進

郷土に目を向けさせ、名所・旧跡、特産物など英語で紹介できるように、ふるさと教育に関連させた単元を年間指導計画の中に位置付けた。また、児童の発達の段階に応じて、内容に関連させ、郷土のよさを発表する活動の中で、学習した単語や表現をなぞったり、写したりする「書くこと」に取り組みさせた。

郷土の学習と関連させた単元(年間指導計画)

月	単元名	単元末の目標
5月	Hi, friends! 2 When is your birthday?	伊佐のオリジナルカレンダーを作ろう。 (好きな行事・開催日を紹介)
9月	Hi, friends! Turn right.	伊佐の道案内をしよう。(身近な建物について紹介)
11月	Hi, friends! 1 What would you like?	伊佐のおいしい食べ物を紹介しよう。 (特産物について紹介)
12月	独自教材 伊佐を紹介しよう。	レポーターになって伊佐を紹介しよう。地域のおすそめを紹介しよう。

独自教材: 伊佐を紹介しよう!

単元目標

- ・伊佐を紹介する活動を通して、積極的に友達とコミュニケーションを図ろうとする。
- ・これまで学習した表現や伊佐を紹介する表現に慣れ親しむ。
- ・伊佐を紹介する活動を通して、日本語と英語の音の違いや伊佐のよさに気付く。
- ・紹介したい名所についての表現をなぞったり、写したりして書く。

単元計画

時	めあて	内容
1	伊佐について紹介する言い方を知ろう。	建物や名所、食べ物等紹介したいものを選ぶ。チャンツで紹介する言い方を練習する。復習すごろくゲームをして、Hello. This is ～を使い、紹介する言い方に慣れる。十分に慣れ親しんだ後、自分の選んだ名所等についての表現を写す。
短	紹介したい文に慣れよう。	復習すごろくゲームをし、紹介したい文に慣れる。
2	伊佐を紹介する言い方を知ろう。	表現リストから、紹介するのに必要な表現を選ぶ。I like ～. You can (see/eat/play …) を使い、紹介する言い方を練習し、なぞる。
短	紹介したい文に慣れよう。	ペアやグループで紹介したい文を練習する。
3	伊佐を紹介する言い方を知ろう。	I like を使った復習ジェスチャーゲームをする。紹介文の終わりの言葉、Let's go to Isa. 終わりのあいさつ Thank you. に慣れる。十分に慣れ親しんだ後、なぞる。
短	紹介する練習をしよう。	完成した紹介したい文を練習する。
4	レポーターになって伊佐を紹介しよう。	レポーターになりきって、互いに発表し合う。

指導の実際

地域のことを「伝えたい」という児童の思いを大切に、紹介する文に段階的に取り組ませた。

- ① 紹介したい名所・特産物を選び、言い方に慣れさせる。
- ② 紹介したい文の表現の仕方を選び、練習させる。
- ③ 十分に練習した後、自分の選んだ名所やそこでできることなどについての文や、文中の単語をなぞらせたり写させたりして段階的に書けるようにする。

伊佐のピックアップカード



左記の単元の際には、伊佐の名所や特産物を毎回扱い、書くことに少しずつ慣れさせていった。

振り返りカード(第4時)

伊佐を紹介しよう ④ Name _____

Today's goal _____

学習内容の流れに基づいた評価項目

月日	学習内容	振り返り
5月	あいさつで自分の気持ちを伝えられたか。(挨拶 目を覚まして英語で)	顔・目・声はできた
5月	伊佐市について紹介する言い方の練習ができたか。	しつこくできた
5月	レポーターになって伊佐市の紹介ができたか。	しつこくできた
5月	友達の前で発表のよかったところや自分ががんばったことを発表し合えたか。	しつこくできた

【しっかりと書いたら〇をつけよう。】
紹介するとちゅうの文章は書けたかな? (自分が選んだ物に〇をつけよう)
①() あいさつ ②() 紹介する物や場所等の説明
③() 自分の好きなことを紹介する ④() 伊佐の名所で、できることを紹介する
⑤() 聞いている人を見よう ⑥() おわりのあいさつ
【どんなことをして、どんなことができるようになったかな? 友達のよかったところを見つけてみよう。】

【先生から】

成果

- ・年間指導計画の中にふるさと教育に関連させた単元を位置付けたことにより、系統的に郷土についての理解を深めながら、学習に取り組むことができた。
- ・短時間学習を授業と効果的に関連させることにより、英語の表現への慣れ親しみが進んだ。
- ・「書くこと」に関しては、1文ずつ十分に音声の指導を行うことで、抵抗感を少なくした。
- ・児童は、郷土の素材を生かした活動の工夫により、学習への意欲(書くこと)が高まった。

課題

- ・既習表現や使える語彙が限られているため、伝えたい内容を表現することが難しい内容もあった。簡単に分かりやすく表現できるように、工夫が必要である。
- ・英語を使う場の設定や必然性を持たせる指導の工夫が更に必要である。
- ・文字が正しく書けているかどうかを、個別に確認することに時間を要した。



自己表現活動と「書くこと」の関連を図った指導事例

～鹿児島県鹿屋市立鹿屋小学校・祓川小学校・東原小学校 第6学年～

本単元の目標

- テーマに基づいて、英語で紹介したり、聞いた内容について、英語で質問したりする。
- 独自教材(My Book)に、国語で学習したローマ字やHi, friends! Plus で学習したアルファベットを使って簡単な単語を書き写す。

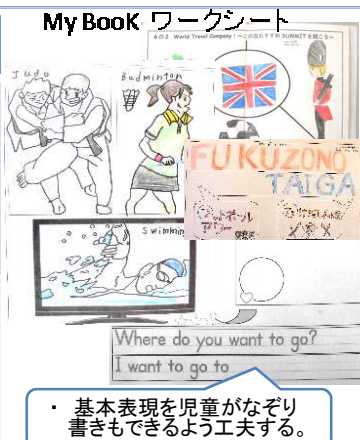
指導の実際

対象学年：第6学年 単元名：「世界一周をしよう」

使用教材：文部科学省作成 Hi, friends! 2、Hi, friends! Plus ワークシート、アルファベットカード、独自教材 My Book (テーマに基づいて自分のことを紹介するために書かれたワークシート集)

◆ アンケート等においても文字の学習を生かして、単語を読んだり、書き写したりすることができるようにしたいと、知的好奇心が高まっている様子が分かる。そこで、文字指導を自己表現活動と関連をもたせ、「書くこと」への興味・関心を高める指導へとつなげる。

	主な学習の内容	文字指導	My Book
第1時	目標：世界の国々に関心をもち、国名の言い方を知る。 ①国旗当てクイズをする。 ②自分の関心がある国について情報を整理する。 ③Hi, friends! Plusワークシートを用いてアルファベットの学習をする。	使用教材：Hi, friends! Plus ワークシート ・ アルファベットの学習	・ テーマに基づいて、自分の考えをまとめる。(ブレンストーミング)
第2時	目標：行きたい国について紹介したり、尋ねたりする表現に慣れ親しむ。 ①国の名前ビンゴをする。 ②My Bookに描いた絵をもとに、友達に紹介したり、尋ねたりする。 ③アルファベットカードを並べて、物の名前を英語で表す。	使用教材：アルファベットカード ・ 文字を組み合わせて単語をつくる学習(テーマに関する物の名前) ・ 組み合わせた文字の音を推測する。	・ 絵を使ってまとめたものを基に、自己表現活動を行う。
第3時	目標：アルファベットカードとローマ字を組合わせて単語をつくり、MyBookに情報を付け加える。 ①3ヒントクイズをする。 ②My Bookにローマ字やアルファベットカードを用いて情報を付け加える。 ③文字の組合せから、音を推測する。	使用教材：アルファベットカード ・ 文字を組み合わせて単語をつくる学習(色) ・ 組み合わせた文字の音を推測する。	・ 前時で学習した物の名前をローマ字やアルファベットカードを用いて、絵に書き加え、自己表現活動を行う。
第4時	目標：友達とやり取りして分かったことをローマ字やアルファベットカードを用いて表し、それを書き写してメモを作る。 ①3ヒントクイズをする。 ②メモをもとに、全体の場で紹介する。 ③友達のメモからやり取りの内容を把握する。	使用教材：アルファベットカード ・ 組合せから単語の音を推測する。 ・ カードを用いて表した単語を書き写す。	・ 友達の名前や英語でやり取りして分かったことを、ローマ字やアルファベットカードの組合せで表し、それを書き写したメモをつくり、全体の場で紹介する。



指導のポイント

- ・ 児童が自分の成長や変容を自覚できるように、ワークシートをポートフォリオ形式で蓄積し、振り返りに活用する。
- ・ 児童が「書くこと」にスモール・ステップで取り組めるように、単語のつづりをアルファベットカードで並べた後に、それを見て書き写す活動を設定する。
- ・ 児童の書いてみたい、読んでみたいという興味・関心を大切にしながら取り組ませる。



指導の効果

- ・ 独自教材My Bookのワークシートをポートフォリオ形式で活用したことにより、評価や指導に生かすことができた。
- ・ 音声でのやり取りだけでなく、そこに簡単な英語の文字が加わったことで、児童が「分かった」「できた」という達成感を持ち、「もっと学びたい」「もっと話したい」「もっと書きたい」という意欲につながった。

語順などの文構造に気付かせる指導事例

～島根県雲南市立吉田小学校・田井小学校 第5・6学年(複式学級)～

本時の目標

- 簡単な英語の文を絵を使って視覚的に提示し、日本語の語順と比べさせることで、英語の語順のきまりに気付く。
- 国語科で学習した内容を生かしながら、日本語の語順のきまりにも気付かせることで、言語に対する感覚を豊かにする。

指導の実際

対象学年：第5・6学年(複式学級)
使用教材：文科省作成 Hi, friends! Plus ワークシート (㊿)、デジタル教材、動作化のための教具(児童名のカード、かぶのお面など)、動物の絵カード、生態系ピラミッドの図

学習活動(2時間扱い)

- ①指導者が話す絵本“A Letter to...”の英語の文を聞きながら、英語の文における主語と目的語の関係を体験的に理解する。(動作化を通して)
- ②Hi, friends! Plusワークシートで指導者が話す英語の文に合う絵を選ぶ活動を通して、英語の語順のきまりに気付く。
- ③色分けして視覚的に示された英語の文を見て、英語と日本語の語順の違いやそれぞれのきまりを理解する。※右図【板書例】を参照。
- ④主語と目的語を替えた文を使って、学習したことを確かめる。
 - 第1時 「大きなかぶ」の劇を用いて動作化し、体験的に理解する。
 - 第2時 理科で学習した食物連鎖の関係について、英語の語順に気を付けて表現する。

◆小学校の高学年になると、文構造や語順について分析的に捉える力も育ってくるため、こうした取組は児童の知的好奇心を刺激し、物事を論理的に思考しようとする習慣を身に付けるきっかけとなる。

【第1時板書例】「大きなかぶ」を例にして、英語の主語・述語・目的語という語順を、視覚的に理解できるようにする。

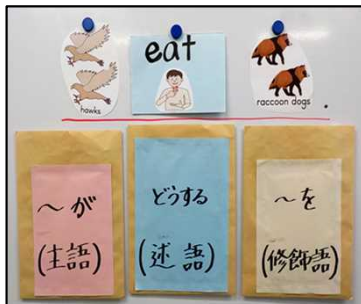


【第1時の活動】「大きなかぶ」を動作化し、繰り返し発音することで、主語と目的語の関係を体験的に理解できるようにする。



【第2時板書例】食物連鎖の関係例にして、英語の主語・述語・目的語という語順を視覚的に理解できるようにする。

【第2時の活動】食物連鎖の関係にある生き物を選んで生態系ピラミッドを完成させ、主語と目的語の関係に気を付けながら表現させる。



指導の効果

- ・学習後の振り返りの際、「日本語の語順と英語の語順は違うので、英語は最初と最後をよく聞いていれば、どんな状況なのかがよく分かる」と感じている児童が多くいた。
- ・日本語の助詞の働きに興味をもち、日本語は助詞によって文の意味が変わることに気付く児童もいた。
- ・小学校において文構造の違いやきまりなどに気付かせることで、中学校での論理的な学習にスムーズにつながられる。
- ・英語の語順などの文構造について日本語と比較して考えることで、国語科で学習した知識が生かされ、国語科の学習への意欲を高めることにもつながる。

アルファベットの文字と音のつながりに気付かせる指導事例

～福岡県筑紫郡那珂川町立安德南小学校 第5学年～

本時の目標

単元名「スペシャルランチメニューを紹介しよう」(5時間)

- 欲しい物を丁寧な表現で尋ねたり答えたりしながら、積極的に友達とのコミュニケーションを楽しむ。
- 聞き手に分かる声やスピードで、欲しい物を丁寧な表現で注文したり、友達の欲しい物を聞いたりするやり取りができる。

指導の実際

対象学年：第5学年

使用教材：文科省作成 Hi, friends! 1、
Hi, friends! Plusワークシート (①、③-②)

◆ 小学校の高学年になると、簡単な単語であれば、つづりとその意味や音が結び付いている言葉が増えてきている。この時期に、先頭音を取り扱うことによって、自然とアルファベットの文字と音のつながりに気付かせることができる。

学習活動

<第1次> (第1時～第3時)

場面の状況に合わせて、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり、言ったりすることができる。

<第2次> (第4時)

- 1 **食べ物ジングル**を行い、食べ物の単語の発音を想起する。
- 2 **ポインティングゲーム**を行い、アルファベットと音のつながりを意識する。
- 3 **マッチングゲーム**を行い、アルファベットと単語の先頭の文字と音のつながり(先頭音)に気付く。
- 4 Hi, friends! Plusワークシートでアルファベットの書き方を確認し、**Myレストランメニュー**に4線を意識しながら単語の頭文字を書く。

<第3次> (第5時)

「Myレストランメニュー」を進んで友達に紹介できる。

指導の効果

- ・アルファベットの文字とその音の関係に十分に慣れ親しませた後で、書く活動を仕組んだ。児童は、抵抗なく書く活動に取り組むことができた。
- ・オリジナルのメニューを作成するという学習活動をゴールに仕組んだことで、文字を書く活動に必然的に取り組むことができ、児童の文字に対する興味を高めることができた。
- ・小学校での気付きを大切にして、中学校で指導を行うことが効果的であると考えられる。

1 食べ物ジングル

Hi, friends! Plus「Food」を行い、リズムに合わせて食べ物の名前を想起させるとともに、単語の先頭のアルファベットの音を意識させる。

[h][h]
hamburger



2 ポインティングゲーム

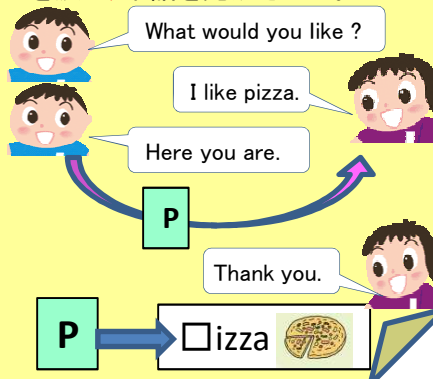
- ① 教師が発話する食べ物の名前を聞かせ、ワークシート*の中から探して絵を指差させる。
- ② 「[h][h]」とワークシートにある単語の先頭のアルファベットの音を聞かせ、ペアで協力して音と合う絵を探して指差させる。



*「ワークシート③-②アルファベットの文字の認識・音の認識(食べ物編)」を使用

3 マッチングゲーム

“What would you like?” “Here you are.”の表現を用いて、尋ねたり答えたりして、必要なアルファベットを渡し、単語を完成させる。



4 Myレストランメニュー作成

- ① 「ワークシート①アルファベットの大文字の認識」でワークシートのよく見ながら、4線を意識してアルファベットを書かせる。
- ② 「Myレストランメニュー」に載せる食べ物の単語の頭文字を書かせる。



アルファベットの音と文字を関連させた指導事例

～宮城教育大学附属小学校 第5学年～

単元の目標

- 進んでつづりを確認したり、意欲的にアルファベットの大文字・小文字を書こうとしたりする。
- アルファベットの文字とその音の関係に気付くことができる。

指導の実際

対象学年：第5学年 使用教材：文科省作成 Hi, friends! Plus ジングル (全8時間 5～8時の学習活動を抜粋)

第5・6時

目標：アルファベットカルタ作りを通して、アルファベットの音や文字との関係を理解することができる。

- ①Hi, friends! Plus ジングルを聞いたり言ったりして、アルファベットの音に慣れる。
- ②班で分担して、aからzのそれぞれが頭文字になっている英単語を辞書(英和辞典)で調べる。
- ③英単語をカードに書き写し、さらにそのイラストを描いてカルタを作る。

- ◆単元を通してHi, friends! Plus ジングルを繰り返し聞かせたり言わせたりして、アルファベットの音に慣れさせていく。
- ◆カルタ作りの活動を通して、子供に辞書で英単語を調べたり、書いたりする必然性を持たせる。

第7時

目標：自分が作成したアルファベットカルタの札の読み方を言うことができる。

- ①自分が作成したカルタの札の読み方を考えながら、Hi, friends! Plus ジングルを言う。
- ②ジングルを参考にして、カルタの札の読み方を考え、練習する。
- ③次時に行う3年生とのカルタ取りの進め方を確認する。

- ◆ジングルを参考にして札の読み方を考えさせる。“apple”の札であれば、「A、/æ/、/æ/、“apple”などと英単語の頭文字とその音、単語の読み方を関連させて札を読ませる。



第8時

目標：アルファベットカルタ遊びを通して、音や文字との関係の理解を深めることができる。

- ①“ABC Song”を3年生と一緒に歌う。
- ②カルタ取りのルールを3年生に説明する。
- ③グループに分かれてカルタ取りをする。
- ④3年生に欲しいカルタを尋ねて、プレゼントする。

- ◆「3年生とのカルタ取りで札を読む」という目的意識を持たせることで、子供は札の読み方を繰り返し練習し、アルファベットの音や文字の関係への理解を深めることができる。

